

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【公開番号】特開2002-253502(P2002-253502A)
 【公開日】平成14年9月10日(2002.9.10)
 【出願番号】特願2001-57577(P2001-57577)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 3/024 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 F

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月15日(2008.2.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 視野ドーム内面に視標スポットを投影し、前記視標スポットの投影位置、および前記視標スポットの視認に関する被検者の応答を記録する視野計において、前記視標スポットを視野ドーム内面に投影する投影機構と、
入力面の所望の位置に入力を行うための入力手段と、
前記入力手段により入力された所望の位置に対応する視野ドームの位置に視標スポットが投影されるように前記投影機構を制御する制御手段と、
を備えたことを特徴とする視野計。

【請求項 2】 前記入力手段が被検者の応答に関する応答情報の記録に用いられることを特徴とする請求項 1 に記載の視野計。

【請求項 3】 前記入力手段による位置入力を、被検者の応答情報を表示する表示手段上で行うことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の視野計。

【請求項 4】 前記入力手段が座標入力デバイスであることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の視野計。

【請求項 5】 前記表示手段が C R T ディスプレイ、L C D ディスプレイ、あるいはデジタルパッドであることを特徴とする請求項 3 に記載の視野計。

【請求項 6】 前記入力面に機械式視野計で用いられる記録チャートのパターンが表示または印刷されることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の視野計。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するための本発明は、
 視野ドーム内面に視標スポットを投影し、前記視標スポットの投影位置、および前記視標スポットの視認に関する被検者の応答を記録する視野計において、
 前記視標スポットを視野ドーム内面に投影する投影機構と、
入力面の所望の位置に入力を行うための入力手段と、
前記入力手段により入力された所望の位置に対応する視野ドームの位置に視標スポット

が投影されるように前記投影機構を制御する制御手段と、
を備えたことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明によれば、視野ドーム内面に視標スポットを投影し、前記視標スポットの投影位置、および前記視標スポットの視認に関する被検者の応答を記録する視野計において、前記視標スポットを視野ドーム内面に投影する投影機構と、入力面の所望の位置に入力を行うための入力手段と、前記入力手段により入力された所望の位置に対応する視野ドームの位置に視標スポットが投影されるように前記投影機構を制御する制御手段とを備える構成を採用しているので、旧来の手動式（機械式）のゴールドマン視野計の操作感覚を電子化された操作系の上でシミュレートでき、自動視野計並みの取り扱いの容易さを有し、臨機応変かつ効率の良い測定を行なえる操作性に優れ、手動式のゴールドマン視野計および自動視野計のそれぞれの長所を持ち、自由度のある手動操作が可能であり、検者の意図に応じて効率よく、また容易に測定操作を行なえる優れた視野計を提供することができる。